宮ノ浦遺跡 第14次発掘調査現地説明会

8月10日（土）に、佐島にある宮ノ浦遺跡において、愛媛大学法文学部考古学研究室と町教育委員会による第14次発掘調査現地説明会が開催されました。

第14次となる今年度の調査では、宮ノ浦遺跡の東側に広がる浜堤（はまづつみ）上に設定した調査区であるⅡ区で、縄文時代の遺物包含層の広がりやその時代の地形を明らかにすることと、古墳時代から中世にかけての生産活動の実態を明らかにすることを目的に8月2日（金）から16日（金）まで発掘作業を行いました。調査では、縄文土器片や製塩土器片、古代の製塩活動にともなう遺構と考えられる鹹水溜め（かんすいだめ）（濃い海水を入れる土坑）、軟弱な地盤を補強するために造成された古代末～中世初頭の粘土塊および礫群などを検出しました。

これまでの発掘調査では、縄文時代草創期後半（約1万3千年前）の隆帯文土器（りゅうたいもんどき）や刺突文土器（しとつもん）が確認されています。その時代は現代よりも寒冷であったため海面が低下し、宮ノ浦遺跡周辺の瀬戸内には海水が流入していませんでした。宮ノ浦遺跡は、縄文時代から現代に至るまでの瀬戸内海地方の環境の変動や生活様式の変化を考える上で、大変貴重な遺跡であることが分かってきました。

現地説明会では、参加者の皆さんは発掘調査成果の説明に熱心に耳を傾けられ、活発な議論が飛び交いました。会場では、発掘調査の成果に基づいて作成された縄文時代や古墳時代の宮ノ浦の風景画、各時代の出土遺物などが展示されました。また、発掘体験や粘土に縄文土器に見られるような文様をつける縄文施文体験では、子どもから大人まで多くの方々に考古学の楽しさを感じていただきました。

国土交通大臣杯 第15回全国離島交流中学生野球大会in壱岐市

▲ 8月9日 全国離島交流館中学生野球大会　出陣式

令和6年8月19日（月）～23日（金）長崎県壱岐市で国土交通大臣杯第15回全国離島交流中学生野球大会（離島甲子園）が行われ、全国の離島から9都県、22チームが参加しました。

この大会は、元プロ野球選手で「まさかり投法」により通算215勝された、故　村田兆治氏が引退後、現役時代の経験をもとに、離島球児たちにもっと大きな夢や目標を持たせたいという想いで、離島球児たちにとっての「もうひとつの甲子園」として、「離島中学生野球大会」開催を提唱されたことから実現に至ったものです。地理的環境から島外との交流機会の少ない全国の離島中学生が一堂に会し、野球を通じて「島」と「島」の交流が行われています。

上島町からは、岩城中学校と弓削中学校の生徒12名で構成されたチーム「KAMIJIMA」が出場しました。トーナメント戦では開催地である長崎県壱岐市の「壱岐市選抜」と対戦し0-3で敗退、交流試合では長崎県五島市の「五島バラモン」と対戦し1-9で、ともに負けてしまいました。しかし、どちらの試合も多くのチャンスがあり、流れ次第では勝ってもおかしくない試合でした。また、参加した選手たちが全国の離島の仲間たちと野球を通して成長する姿を見ることができました。来年開催される沖縄県宮古島市では更なる活躍を期待しています。